

第二十一表 北硫黃島附近ノ海底噴火

年 (西曆)	月 日	記 事
明治十三年(一八八〇)		北硫黃島北之岬ノ西方約二哩ノ海底ヨリ泥土灰燼及ビ火焰ヲ噴出ス、翌年ニ及ビテハ既ニ火焰ノ噴出ヲ見ズ。 <small>(水路誌)</small>

第二十二表 南硫黃島附近ノ海底噴火

年 (西曆)	月 日	記 事
明治三十七年(一九〇四)	十一月二十八日頃	南硫黃島ノ北東約三哩ノ海中、即チ北緯二十四度十六分三十秒、東經百四十一度三十分ノ邊ヨリ噴火ス、中硫黃島ニテハ十一月十四日以後其ノ南方ニ當リ時々大砲ヲ發射スルガ如キ音響ヲ聞キタルガ、同月二十八日午前十時始メテ南硫黃島ノ東方約三海里ノ邊ニ於テ一條ノ煤煙ヲ認ム、其後約一時間ヲ過ギ黑煙頗ル猛烈トナリタルモ此時ハ何等ノ音響ヲ聞カズ、十二月五日ニ至リ始メテ噴煙中ニ小島ヲ發見セリ、翌明治三十八年二月一日ニ中硫黃島移住民有志者ガ探檢セルトキハ、新島ノ周圍約二千六百間(一里七町)、其ノ最モ高キ處、海拔八十間許、北端ニ小池アリ、周圍四百餘間、池中尙沸騰シ蒸氣盛ニ昇騰セリ、池ノ北岸ハ高サ三四尺

年

(西曆)

月

日

記事

大正三年(一九一四)

一月二十三日頃

ニ過ギズ高浪ノ際海水浸入スベキモ、南岸ハ斷崖絶壁ニシテ其頂上ハ即チ島中ノ最高地ナリ、島ノ面積ハ約八十町步ニシテ概ネ平坦ナリ、海濱ハ浮石若クハ砂等ナリシト云フ、新島ノ出現ヨリ百九十餘日ヲ經テ明治三十八年六月十六日脇水理學士等ガ汽船兵庫丸ニテ新島ニ向ヒ航行セル際ハ新島ハ殆ド消滅シテ僅ニ水面ニ其背ヲ現ハスニ過ギザルニ至レリ、新島ハ爾後其ノ存在ヲ失セルナリ。(震災豫防調査會報告第五十六號 脇水理學士新島調査報告)

南硫黃島ノ北々東約三海里、北緯二四度一六三分、東經一四一度二九分、即明治三十七年ト全ク同位置ノ海底ヨリ再ビ噴火セリ、中硫黃島ニ於テハ二十三日午後四時三十分始メテ南硫黃島ノ東方沖合ニ大噴煙アルヲ目撃シタルガ夜間ハ噴煙中ニ煙火ノ如キ火光ヲ發シ光景頗ル壯絶ナリキ、二十五日午後一時ニ至リ噴煙少シク晴レタルトキ、一新島ノ湧出セルヲ發見シタリ、東西約七百間、南北約五百間、周圍約千九百間、面積約二十七萬五千坪、高サ海面上約四百尺ニシテ噴口ハ直徑約二百間アリ其南方ニ缺所ヲ生ズ、新島ハ主トシテ灰、輕石ヨリ成レリ。此ノ噴火ノ位置ハ明治四十四年ノ海軍測量ニヨレバ二百三十三尋ノ水深ヲ有シタリキ。(震災豫防調査會報告第七十九號小倉理學士新硫黃島噴出調査報告、安藝内務技師視察復命書)

汽船嘉代丸船長ハ大正五年六月二十九日午後一時南硫黃島ト北方新島トノ間ヲ巡航セシニ該新島ノ島影及波浪ヲ認メズ、其位置ニ於ケル海水黃灰色ヲ呈セリト云フ。(海軍水路部告示)